

団体名	長崎留学生支援センター						
事業名	長崎市民と長崎地域の大学等の新入留学生、日本人学生に対する平和学習及びバスハイク						
実施期間	6月2日(土)、11月10日(土)						
場 所	長崎大学 中部講堂、長崎原爆遺跡、長崎原爆資料館、長崎歴史博物館						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	456		18		27	10	511名

### <実施内容>

留学生の皆さんはすでに日本に留学生する前に長崎と広島へ原爆が投下されたことについては知っていましたが、実際に被爆講話を聴き、被爆遺構を見学するのは初めてでした。午前中、学生達は中部講堂で長崎原爆についてのDVDを見て、その後爆心地から約600メートル地点で被爆した深堀譲治さんの講話を聴きました。深堀さんは地図と写真を見せながら、当時の様子を語りました。核兵器への怒りや母や兄妹を亡くした悲しみや苦しみ伝わる講話に、参加者は聞き入っていました。講話の最後には「核兵器や戦争は絶対ダメ。」「あなたたちが今日感じたこと、体験したことを母国に帰ったら伝えてほしい。」という深堀さんの平和に対する強い願いが伝えられました。すでに核兵器の被害について知識として知っていた学生からは実際の被爆者である方の生の声を聴くことにより、想像以上の悲惨さと放射能の影響力の大きさに驚いたという声がありました。核兵器についてはそれぞれの学生のバックグラウンドによって、捉え方が異なるもののすべての学生が改めて平和の尊さについて実感していました。昼食の時間には水辺の森公園へ移動し、青空の下で芝生や海辺にそれぞれグループで分かれ、楽しいひとときを過ごし、学生達は交流を深めていました。その後、被爆遺構巡り(平和公園・原爆落下中心地公園)と、原爆資料館を見学しました。被爆遺構巡りでは、各言語に分かれ平和案内人(ボランティアガイド)の話を真剣に聞き入り、原爆投下時の様子や投下後の平和を願う取り組みについて学んでおりました。それぞれの言語でのガイドであったため、質問等がしやすく、より理解しやすいようでした。また、長崎歴史博物館では、江戸時代の長崎奉行所立山役所で実際に行われた裁判の寸劇を観覧しました。当時の衣装を身に付けた御奉行様の登場に、多くの参加者が興味津々の様子でした。御奉行様の登場場面では、演者からの要請で日本語がまだ不十分ながらも劇の中で合の手を入れるなどして、劇に参加しました。寸劇の後には、御奉行様と記念撮影をするなどして、楽しく、長崎の歴史について学びました。短い一日でしたが、参加者である学生にとって有意義な時間になりました。

### <記録写真>



被爆者講話



平和公園



長崎歴史文化博物館

### <参加者からのコメント>

匿名(America)/Anonymous

今まで生きてきた中で大きく人生観が変わる貴重な経験だった。被害に遭われた方々の思いや苦しみを実体験を通して聴くことができたのは本当に良い経験になった。それにより原爆の恐ろしさがもっと理解できた。世界平和と廃核の求めを強く感じた。

匿名(中国)/Anonymous(China)

現場の写真を見て大変驚きました。原爆の恐ろしさ、戦争の理不尽さや平和を祈る重要性に痛感しました。平和年代にいる私達は幸せです。これからも平和事業のために頑張らなければなりません。また、長崎の歴史のほんの一部に触れ合いができてとてもよかったです。